

2025 October

Vol.94

広島西医療センターNEWS

発行所:独立行政法人 国立病院機構 広島西医療センター <https://hiroshimanishi.hosp.go.jp/>
 〒739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号 TEL.0827-57-7151(代)



■ CONTENTS ■

令和7年度第2回地域医療連携のつどい	2	職場紹介 東3病棟	14
キャリア・スタート・ウィーク(中学生職場体験学習)	6	ひこばえ通信 Vol.20	15
高校生職場体験2025	7	患者図書室から	16
令和7年度解剖慰霊祭、あゆみ病棟・若葉病棟物故者慰霊祭	10	栄養士のつぶやき⑤	17
「還暦を祝う会」を実施して	11	地域医療連携機関のご紹介	18
診療科紹介 総合診療科	12	地域医療連携室実績報告	19
診療科紹介 循環器内科	13	紹介医療機関実績報告	19
職場紹介 薬剤部	14	外来診療担当医表	20

病院理念「患者さんと共に」

■ 基本方針

- 患者さんの意思の尊重と信頼関係の確立
- 地域に密着した良質で安全な医療の提供
- 予防医療への貢献
- 医療の質の向上のための研鑽
- 経営基盤の確立

■ 「患者の権利」宣言

- 個人の尊厳の権利
- 良質な医療を平等に受ける権利
- 自分の受けている医療について知る権利
- 自分の意見を表明し、自己決定する権利
- 個人のプライバシーが守られる権利



公認キャラクター
「ニッサーくん」

令和7年度第2回地域医療連携のつどい

経営企画室長 杉 山 寿



令和7年8月7日(木)に、安芸グランドホテルにて、「広島西医療センター令和7年度第2回地域医療連携のつどい」を開催いたしました。昨年に続き2回目の開催となります。常日頃からお世話になっている地域の医師会関係者並びに地域医療機関の皆様方に對し、感謝の意をお伝えすると共に、地域の皆様と当院職員との交流を通じて、更なる地域医療連携を強化し、地域に根ざした医療体制を構築することを目的として実施しております。

当日は、医師会関係者並びに地域医療機関の皆様、当院職員を併せて約100名の方にご出席をいただきました。お忙しい中、貴重なお時間を割いてご参加いただいた皆様には深く感謝申し上げます。

開会に際して、当医療センターの新甲院長から開会の挨拶を行い、ご来賓の大竹市医師会長 坪井 和彦先生、並びに大竹市長 入山 欣郎様よりご祝辞を賜りました。乾杯は岩国市医師会長 小林 元壯先生よりご発声をいただき、歓談が始まりました。

会場は終始和やかでリラックスした雰囲気の中、活発な意見交換が行われました。参加者同士の垣根を越えた会話が自然と生まれ、日頃の業務ではなかなか得られない視点や情報を共有する場として、大変有意義な時間となりました。また、飲食をともなった歓談を行うことで、初対面の方々同士でも打ち解けやすく、笑顔の絶えない交流の場となつたことも印象的でした。



歓談の途中には、当医療センターの新任診療部長、および診療科医長を紹介させていただき、その後、藤高地域医療連携室長から地域医療連携実績の報告、末岡皮膚科医師より皮膚科の取り組み、平塩腎臓内科医長より腎臓内科の取り組み、大石診療部長より外科の取り組みを紹介させていただきました。

会の最後には当医療センターの鳥居副院長より閉会のあいさつを行い、盛況のうちに閉会となりました。参加者の皆様からは、「こうした場が定期的にあるとありがたい」「地域のつながりを実感できた」といったご感想をいただき、個人的にも、このような交流の場を通じて、地域の皆様と直接お会いして相互理解を深めることの重要性を改めて実感しております。

今後も職員一同、地域の皆様と共に、より良い医療提供に向けて取り組んでまいりたいと考えております。引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。



地域医療連携室実績報告



国立病院機構 広島西医療センター

地域医療連携室長
藤高 淳平

広島西医療センターの特色

○がん、神経・筋難病、重症心身障害診療の専門医療

○血液内科については、広島県西部及び山口県東部の地域において血液内科医が複数勤務する唯一の医療機関

○地域医療支援病院となり、地域住民の疾病予防と健康の増進

○災害拠点病院（地域災害医療センター）
D M A T チームの派遣

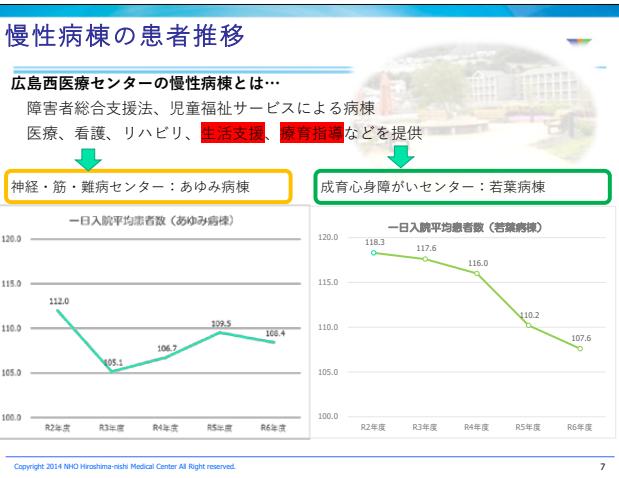
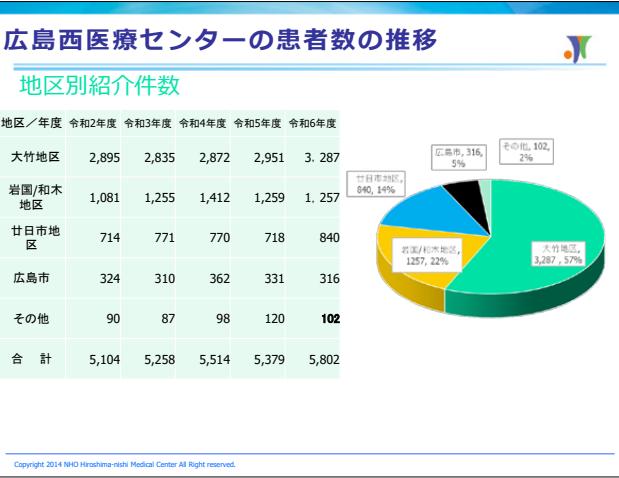
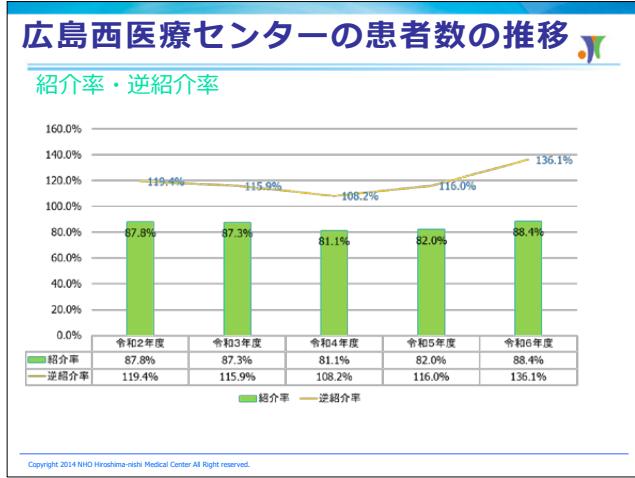
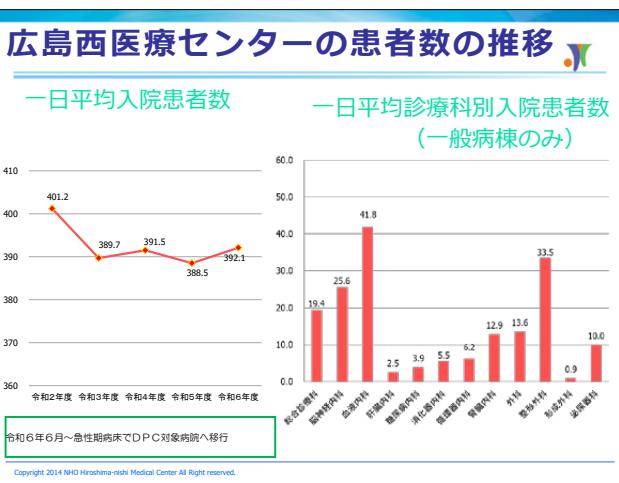
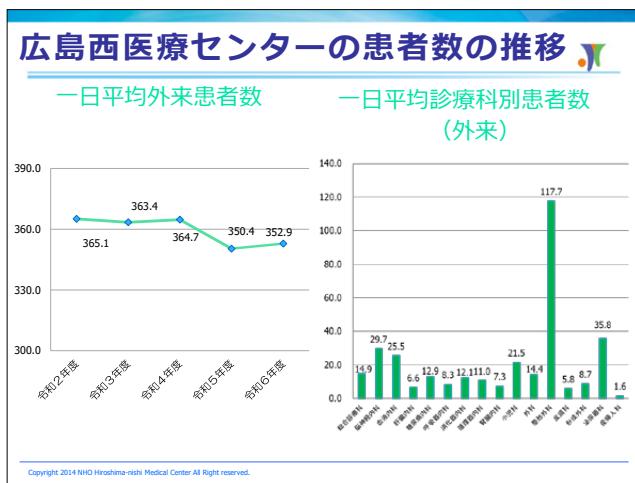
○在宅療養後方支援病院となり、大竹市における在宅医療を推進するため、大竹市大竹市医師会、大竹市地域包括支援センター等と連携し在宅医療提供体制を確立

○病床数：440床 急性期病床 150床 回復期病床50床 慢性期病床 240床

○診療科：25科



Copyright 2014 NHO Hiroshima-nishi Medical Center All Right reserved.



Copyright 2014 NHO Hiroshima-nishi Medical Center All Right reserved.







キャリア・スタート・ウィーク(中学生職場体験学習)

管理課長 佐 藤 匠



令和7年7月23日(水)から25日(金)までの3日間、大竹市内の中学生を対象とした「キャリア・スタート・ウィーク」(中学生職場体験学習)を中学2年生1名の参加で実施しました。

毎年夏休み中にを行うこの職場体験は、病院内での3日間の体験がメインですが、事前挨拶・打ち合わせのアポイントメントも生徒自らが行います。社会人として必要な初步的なことを実践することで自主性を育むようなプログラムなのだと思います。

当院での3日間は、ひとつの部署につき1~2時間で回り全13部署の仕事を体験します。病棟での看護業務、薬剤師、理学療法士や事務の業務など多くの異なる仕事内容を短い間に体験することは心身ともにハードなことですが、生徒さんからは「楽しかった」という言葉を聞けてこちらも励みになりました。そして、職場に入る際もしっかりした声で挨拶、自己紹介ができており、体験学習を楽しめていることが分かりました。

様々な部署を経験したこと、漠然としたイメージの病院の仕事が、前面に出てこないたくさんの方の仕事から成り立っていることを感じ取っていただけたのではないでしょうか。

参加された生徒さんは今回の体験学習を生かして目標を持って学業に励み、自身の可能性を拓げていかれることがあります。そして、もしご縁があれば、数年後に当院を就職先に選んでいただければ幸いです。



当院では、近隣の高等学校を対象に令和7年8月19日㈫に、医療職種に興味を持つもらいたいと考え、初めてコメディカル部門の高校生職場体験を開催しました。薬剤、放射線科、臨床検査科、栄養、療育、リハビリ、事務の7つの各職場をローテーションしてもらいました。募集当初は数名の応募で開催予定でしたが、締め切りが近づくと多数の応募があり、最終的に21名の参加があり大変盛況でした。中国新聞の記者もこられ、取材を受けた高校生から「多くの職種の人が協力して患者の治療に当たっていることが分かった」と記事に掲載されました。見学会終了後に行なったアンケートから、施設見学の満足度は多くの高校生が「たいへん満足」と回答いただき、いろんな職種への興味も出たようで、「職業選択の幅が広がった」「知らなかった職業について学べてよかったです」といった回答が多くありました。他にも「将来医療職に就くことができるなら、この病院で働きたいと思えるような場所だった」という回答があり、初めての企画で時間調整などうまくいかないところもありましたが、開催して良かったと感じています。開催に当たりご協力いただいた皆様に感謝いたします。今後もこの取り組みを継続していきたいと考えています。

●薬剤部



薬剤部では、模擬処方箋を用いた調剤体験に加え、病院薬剤師が日常的に担っている業務紹介や、患者さんの栄養管理に関する経腸栄養剤の試飲体験を実施しました。限られた時間ではあったが、薬剤師の仕事に欠かせない確認作業の重要性や医療安全を守る責任の重さを実感してもらう事ができ、薬剤師という職業への理解を深める有意義なプログラムとなったと思います。

●放射線科

放射線科では一般撮影、X線TV、CT、MRI、乳房撮影、血管撮影、RI、PET-CTなどすべての検査装置の見学と検査内容の説明を行いました。普段目にしない装置や検査にとても興味を持つていただいているようでした。今回の体験が将来の職業選択時の一助になれば嬉しく思います。



●臨床検査科



臨床検査科では生理、細菌、検体、病理の4つの部門を見学し、様々な機器を使用して医師に検査結果を報告する臨床検査を体験していただきました。

生理では超音波検査、細菌ではコロナウイルスの抗原検査を見学、検体では採取された血液や尿がどのように検査されているか分野ごとの分析装置を紹介しました。

また顕微鏡を用いて血液中の細胞や白血球が起炎菌である細菌を貪食している像を鏡検してもらいました。

病理では組織を詳しく調べるため顕微鏡で観察できる状態にする『薄切標本』を作製する様子を見学し、職人の技に感動の声が上がっていました。



●栄養管理室

栄養管理室では、衛生管理上調理室内への入室はできませんでしたが、外から調理や盛り付け、食器洗浄の様子を見学し、普段あまり見ることがない配膳車についても見ていただきました。それから管理栄養士の業務について資料で説明しました。高校生の中には管理栄養士について関心をもってくださっている方もいましたので、将来就きたい仕事の候補になれば良いと思います。



●療育指導室

療育指導室では、療養介護病棟における福祉の分野を児童指導員と保育士が主に担っており、業務は保育活動や療育活動を通して日中活動の充実や発達保障、QOLの拡大に向けて様々な職種が協働し、医療チームで取り組んでいること等を説明しながら、実際に利用者さんと関わる療育の様子や活動場所等を見ていただきました。

生徒さんたちは、医療現場での勤務を希望しているということもあり、皆さん意欲的に聞いておられましたが、病院の中に福祉職があることに驚いておられました。病棟が生活の場であること、そして声にならない思いの代弁をしていることや個々の特性、パーソナリティを理解して日々の生活支援を行うようにしていること等を知っていただけたと思います。

今回の職場体験を通して様々な専門職を知り、療育指導室が入所者の日々の生活に重要な役割を担っていることを知っていただき、将来の選択肢が増えたという生徒さんもおられ、私たちにとても嬉しい時間となりました。

この機会が将来に活かされ、進路実現に繋がることを願っております。



●リハビリテーション科



わがリハビリテーション科は「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」の仕事内容の説明とともに、松葉杖での歩行練習や、話すことや筆談が困難な方が意思を他の人に伝えるための意思伝達装置を見学するなど、実際に現場で行っているものも体験していただきました。松葉杖での歩行練習では慣れない動きに戸惑いながらも、体験を通じて患者さんの大変さやリハビリの必要性を実感されていました。この体験を通して医療職へ進路を決める一助となればと願っています。



●事務部

事務部では、簡単な業務説明の後、社会人1年目の私たちが高校生の皆さんと座談会を行いました。

国立病院機構の事務職員を目指した理由や働き方についてお話しする中で、将来を真剣に考える高校生の姿勢にこちらも刺激を受け、自分自身の初心を思い出す良い機会となりました。働く姿を見せる立場になったことで、基本の大切さや、仕事への向き合い方を改めて見つめ直すきっかけにもなりました。

今回の体験が、医療現場で働く事務職員の魅力に触れる機会となり、国立病院機構の事務職員が高校生の将来の選択肢の一つとなれば嬉しいです。





令和7年度 解剖慰靈祭 あゆみ病棟・若葉病棟物故者慰靈祭

専門職
河 崎 陽 平



令和7年9月10日㈬、当院では令和7年度解剖慰靈祭、あゆみ病棟・若葉病棟物故者慰靈祭を執り行いました。今年は解剖慰靈祭で3名、あゆみ病棟・若葉病棟物故者慰靈祭で17名の患者さんのみたまをお祀りいたしました。

解剖慰靈祭では、開式に続いてお一人ずつお名前が読み上げられ、静寂の中で参列者全員が黙祷を捧げました。院長の慰靈の辞では「病理解剖にご同意くださった患者さんとご家族の厚意を決して忘れず、学びを医療の向上に生かす。」との言葉が述べられ、続く献花では職員、ご遺族が一輪ずつ花を手向け、深い感謝と祈りが会場を包みました。さらに病理担当の立山特別診療役による講演では、解剖を通じて得られた知見が次代の医療にどのように活かされていくかが語られ、改めて故人が残してくださった貴重な学びに思いを馳せる機会となりました。

続いて行われたあゆみ病棟・若葉病棟物故者慰靈祭では、17名の患者さんのお名前が読み上げられ、参列者全員が黙祷を捧げました。院長からは「患者さんの尊厳を守りながら医療に携わることの大切さ」が語られ、職員一同心に刻む言葉となりました。献花の際にはご遺族が静かに涙を流される姿もあり、その表情から大切な時間を共に過ごされた日々の重みが伝わってきました。また、日本筋ジストロフィー協会広島県支部やあ

ゆみ病棟自治会、わかば保護者会からお花やお供えをいただき、多くの方々の思いが式を支えてくださいました。

二つの慰靈祭を通して、患者さんが私たちに残してくださった教えの大きさを改めて感じました。亡き方々への感謝とご冥福を深くお祈りするとともに、この思いを日々の医療に生かしていくことを誓う機会となりました。



「還暦を祝う会」を実施して

療育指導室 保育士 久保田 あゆみ
飯 塚 結 花



令和7年9月18日
(木)に「人生の扉～赤に染まる、感謝のひととき～」をテーマに3名の方の「還暦を祝う会」を療育訓練室にて実施しました。テーマ通りに、会場を赤に染め、ドレスコードは「赤」で参加者の皆さんに赤の飾りを身に着けてもらいました。

人生にはいくつもの節目がありますが、今回は節目の



「扉」をモチーフに、「入場」、「還暦者の20代のころ」、「40代のころ」、そして「現在」と4つの扉をあけて60年の月日を会場の皆さんと一緒に振り返りました。当時の出来事や流行を懐かしみ、当時の思い出話に花が咲き、笑顔がたくさん溢れました。また、新甲院長や家族からお祝いのメッセージを頂き、会場の皆さんで、「おめでとう」と「ありがとう」を伝えあう温かい会になりました。

人生の節目であるこの日を皆さんで、お祝いできることをとてもうれしく感じています。ご参加頂いた皆さん、ありがとうございました。



診療科紹介

総合診療科紹介

総合診療科医長 生田 卓也



広島西医療センター総合診療科は、地域の中核病院として、「さまざまな健康の問題」に対応する外来・入院の窓口です。高齢化が進む現在、“臓器分野別にとらわれず診療する”ことの大切さを強く意識し、急性期から慢性期まで幅広い患者さんのニーズに応える役割を担っています。



●特長・役割

広範な診療内容

内科的な急性疾患（発熱、呼吸器・消化器症状など）、慢性疾患のフォローアップ、多疾患併存例の病棟管理など、総合的な医療ニーズに対応します。

高齢者医療・在宅フォロー

75歳以上の患者さんの割合が非常に高く、自宅以外からの入院例や、日常生活動作（ADL）の低下、栄養状態の悪化などが入院の長期化要因となることがわかっています。こうした背景を踏まえ、在宅環境や生活機能を含めた全人的な診療を心がけています。

チーム医療・地域連携

診療のみならず、看護・リハビリテーション・ソーシャルワーク・栄養などの専門職と連携しながら、患者さんができるだけ日常生活を維持できるよう支援を行います。また、かかりつけ医や地域施設との連携も重視し、医療の継続性を確保します。

政策医療・救急医療への対応

急性期医療の受け入れだけでなく、重症心身障害や神経筋難病など、セーフティネットとしての役割を持つ広島西医療センター全体の使命と歩調を合わせ、総合診療科においても救急外来・入院を含む柔軟な診療体制を整えています。



診療科紹介**循環器内科紹介**

診療部長 藤原仁

循環器内科では、心臓や血管に関する病気を専門的に診療しています。当院には循環器専門医が2名、心不全療養指導に精通した心不全認定看護師が1名在籍し、チームで診療にあたっています。高血圧、狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈、弁膜症など多岐にわたる疾患に対応し、心電図、心エコー、CT、血液検査などを組み合わせて、病気の早期発見と正確な診断をめざしています。外来での薬物治療を基本として、必要に応じて入院で薬物治療調整、カテーテル検査やペースメーカー治療を行っています。再発予防や生活習慣の改善指導にも力を入れ、患者さん一人ひとりに合わせたサポートをこころがけています。息切れ、胸の痛み、動悸、むくみなどの症状は心臓病のサインかもしれません。気になる症状があれば、早めに当科へご相談ください。



職 場 紹 介

●薬剤部



薬剤部長 横 恒 雄

薬剤師は、患者様へ安全で効果的な薬物治療を支援するため、医療チームの一員として日々活動しています。薬剤師の主な役割は、医師から患者様へ処方されたお薬が安全で効果的に使用されているか確認し、必要に応じて医師、看護師へ情報提供を行い薬物治療の適正化を行います。個々の患者様に対して、薬の正しい使い方や副作用の説明など服薬指導を行うことは、お薬の効き目や副作用の確認がお薬を安全に使用するうえで大切なこととなっています。また、チーム医療への貢献として医師や看護師、医療スタッフと連携して、薬物療法に関する相談や意見交換を行い、患者様一人ひとりに最適な薬物治療を提供します。

当院では、15名の薬剤師が在籍しており、一般病棟に1名ずつ専任の薬剤師を配置し、お薬の管理を行っています。入院時に使用されているお薬の把握や相互作用の確認はとても重要な仕事となっています。

医薬品の管理は、病院内で使用されるお薬の発注、保管、管理を行い、品質を確保します。最近では、医薬品の供給不足が問題となっており、お薬の不足により治療の妨げにならないよう確保に努めています。

患者様の安全を最優先に考え、最新の薬学知識を活用しながら、常に患者様に寄り添った薬剤管理を実践しています。当院の薬剤師業務は、多岐にわたり忙しい職場ではありますが、医師をはじめ多職種の医療スタッフと連携してチーム医療が行えることは、非常にやりがいを感じる仕事です。患者様により安心安全な治療を受けていただけるよう今後も継続して取り組んでいきたいと考えております。



●東3病棟



東3病棟看護師長 横田 千恵美

東3病棟は、主に血液内科の患者さんを中心に治療を行っている病棟です。白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液疾患の患者さんに対して、化学療法や自己末梢血幹細胞移植、輸血療法などの専門的な治療を行っています。疾患や治療によって感染のリスクが高くなる患者さんには、安全を考慮し無菌室を設備しております。緊急入院の受け入れにも対応しており、迅速かつ適切な医療を提供しています。

治療が長期にわたることもありますが、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリスタッフ・歯科衛生士・心理士・地域連携室・感染管理室など、多職種が連携し、治療だけでなく精神的サポートや退院後安心して過ごすことができるよう尽力しています。



ひこばえ通信 Vol.20

「雨のつく生き物」

統括診療部長 浅野耕助



猛烈に暑かった夏もいつの間にか過ぎ去り、どこからともなく聞こえる虫の音が、秋の深まりを感じさせる時節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。さて前回のひこばえ通信の冒頭では、七夕の頃の雨にまつわるお話をしました。ここから少しの間、雨について深掘りをしていきたいと思います。

今回はコウモリ、カモノハシと身近な(?)生き物を紹介してきた続きとして、雨と名のつく生き物についてお話をします。皆さんよく耳にされるのは、ナマコの仲間の“アメフラシ(雨虎)”や、渓流の魚“アマゴ(雨女魚)”でしょうか。拙稿Vol. 8で紹介した“アマツバメ(雨燕)”もご記憶にあるかと思います。

では、アマツバメに続く、雨のつく鳥として紹介するのが、「雨鶯(アメウソ)」です。

鶯はスズメくらいの大きさの秋から春にかけて日本にやってくる漂鳥(冬鳥)ですが、その雌が雨鶯と呼ばれます。古語で口笛のことをウソといい、そのか細い愁いを帯びたさえずりからウソという和名がついたとのことです。その雌がさえずると雨が降るといわれ、雨鶯となりました。ちなみに雄がさえずると晴れるといわれ、「照鶯(テルウソ)」なんだそうです。

また、この鶯という難しい漢字が旧字体の學に似ていることや、太宰府天満宮造設の邪魔をしていた蜂の大群を、鶯がどこからともなく飛んできて食べつくしたという逸話から、学問の神様、菅原道真公を祀った各地の天満宮で、木彫りの鶯を「木鶯」としてお守りしているのだそうです。この蜂を退治した逸話から、降りかかる災厄をなかつたこと(嘘)にしてくれるお守りとなつたのですね。



鶯



木鶯

次に鳥類に続く雨のつく哺乳類ですが、これは満場一致で「雨男・雨女(アメオトコ・アメオンナ)」でしょう。そのいわれは説明するまでもございません。伴侶や親しい友人がこのホモサピエンスでしたら大変ですね。行事の度に雨天に見舞われることとなります。まあ雨の多い日本では、高確率でこう呼ばれる羽目になるのですが、当の本人もこの不名誉な称号からなんとかして逃れたいと思っているでしょう。そんな方にはこっそりと妙案をお伝えします。“無門関”という禅の公案集の第二問、「百丈野狐」の公案を読んでみてください。雨男・雨女から脱出するヒントが得られると思います。

では次回もお楽しみに！ 雨の話、まだまだ続きます！



患者図書室から



「医食同源」一健康を守るためにー(ほんの一部を ご紹介)

「食欲の秋」。秋はおいしい食材が揃うため、気を抜くとどんどん食べすぎてしまうことがありますね。「医食同源」という言葉もあるように、健康を保つためには、栄養バランスの良い食事を規則正しく取ることが大切です。今回は皆さまの健康を守る、おススメの本をご紹介します。

※「糖尿病」「脂質異常症」他、疾患別に書かれたレシピ本もたくさんご用意しています

いつも食べる量の塩分がひと目でわかる 塩分早わかり 第4版
(牧野 直子 監修・データ作成/女子栄養大学出版部)

1日350gを手軽においしく! 野菜のとり方 早わかり
(川端 輝江 監修・解説・竹内 富貴子 監修・データ作成/女子栄養大学出版部)

1/2日分がとれる! カルシウムおかず
(女子栄養大学栄養クリニック 監修・栄養と料理 編/女子栄養大学出版部)

1/2日分がとれる! 鉄レシピ
(女子栄養大学栄養クリニック 監修・栄養と料理 編/女子栄養大学出版部)

長生きの切り札! 亜鉛チャージ健康法
(平澤 精一・岸村 康代/アスコム)

食品添加物 キャラクター図鑑 気になるあの成分のポイントがよくわかる!
(左巻 健男 監修・いとう みつる イラスト/日本図書センター)

栄養まるごと 10割レシピ!
(小田 真規子 料理・レシピ・東京慈恵会医科大学付属病院 栄養部 監修/世界文化社)

管理栄養士の ひたすら野菜の作りおきBOOK
(中井 エリカ/エムディエヌコーポレーション)

毎日の食事のカロリーガイド 改訂版
(香川 芳子 監修/女子栄養大学出版部)

バランスのよい食事ガイド なにをどれだけ食べたらいいの? 第5版
(香川 明夫 監修/女子栄養大学出版部)

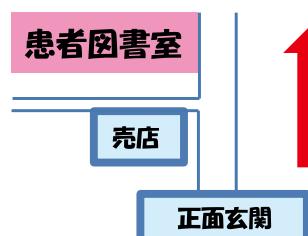
70歳からは超シンプル調理で「栄養がとれる」食事に変える
(塩野崎 淳子 著・若林 秀隆 監修/ すばる舎)

健康な心と体をつくる栄養の基本 新しいタンパク質の教科書
(上西 一弘 監修/池田書店)

栄養の基本がわかる図解事典
(中村 丁次 監修/成美堂出版)

かみやすい 飲み込みやすい 高齢者のやわらか食132
(江頭 文江/Gakken)

—医食同源—
「病気をなおすのも食事をするのも、命を養い健康を保つためで、その本質は同じだということ」
—広辞苑



開館時間 10時～15時(土日祝日・年末年始・第2月曜日をのぞく)
※第2月曜日が祝日と重なる場合は、第4月曜日が休館となります。

場所 正面玄関から入って直進 70m先



*特別メニューを提供しました

今回は6～7月に提供したメニューをご紹介いたします。

当院の調理師が献立作成から調理まで心をこめてお作りし、提供しました。



彩りイタリアン



水無月 ミニ会席



夏に合うスタミナ中華



郷土料理 -岩国寿司-



地域医療連携機関のご紹介

きむら内科小児科医院（訪問診療部）

【診療科目】 内科・小児科

【医師名】 院長 木村 泰博

副院長 木村 真大

【住所】 〒738-0053 広島県廿日市市阿品台 4 丁目 17-31

TEL 0829-39-2238 (代表) 0829-30-3066 (直通)

FAX 0829-39-2501 (代表) 0829-30-3076 (直通)

【診療表】

診療時間	月	火	水	木	金	土
8:30 ~ 12:00 (木、土は 12:30 まで)	○	○	○	○	○	○
15:30 ~ 18:00	○	○	○	/	○	/

※木曜日、土曜日、午後休診。日曜日、祝日は休診。

診療内容の特徴など

在宅医療（訪問診療）とは、お一人で通院が困難な患者様のもとに**医師が定期的に診療**にお伺いし、計画的に**治療・予防・健康管理等**を行うものです。訪問診療の目的は病気の治療だけではありません。転倒や褥瘡（床ずれ）などの予防、栄養状態の管理など、予測されるリスクを回避し入院が必要な状態を**未然に防ぐことも重要な役割**です。

またご自宅で安心した療養生活を送っていただくため、医師や看護師などの医療スタッフが**24時間・365日**対応いたします。容体が急変し、医師が入院を必要と判断した場合、広島西医療センターを始め、各連携病院にて対応します。

住み慣れた地域やご自宅で安心できる生活を送るために、患者様の思いに重きを置いて様々な面でサポートしていくのが、わたしたちの使命です。

訪問できる地域はこれら！

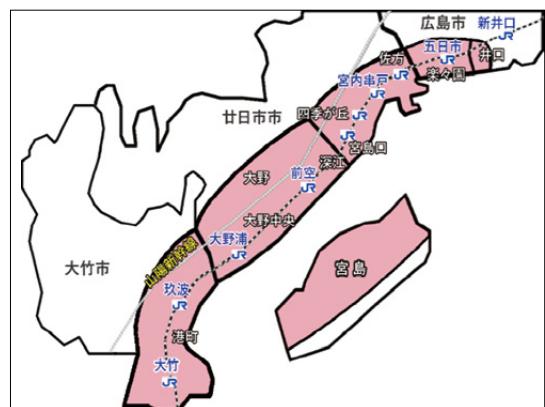
24時間・365日対応

●訪問可能エリア

大竹市、廿日市市、佐伯区

上記が訪問範囲となります。ただし、地域によっては訪問可能な日時が限定される場合もありますので、事前にご確認ください。また訪問範囲外でも、訪問できる場合もございますのでお気軽にお問い合わせください。

※当院で車で30分範囲内（半径約16km以内）を想定しております。



ドクターからのメッセージ

当院は1983年の開院以来、「出生から最期まで」を理念に地域医療に従事しています。強みは以下の3点です。

①**多職種連携**：外来・在宅診療部、居宅支援事業所や訪問看護など多様な部署が迅速に連携。

②**充実した医療**：在宅医療専門医が在籍し、ご自宅でもエコーやレントゲン検査が可能。

③**内科以外も診療可能**：関節ヒアルロン酸注射や褥瘡治療、認知症や精神疾患、神経難病、緩和ケア、小児在宅などに対応。

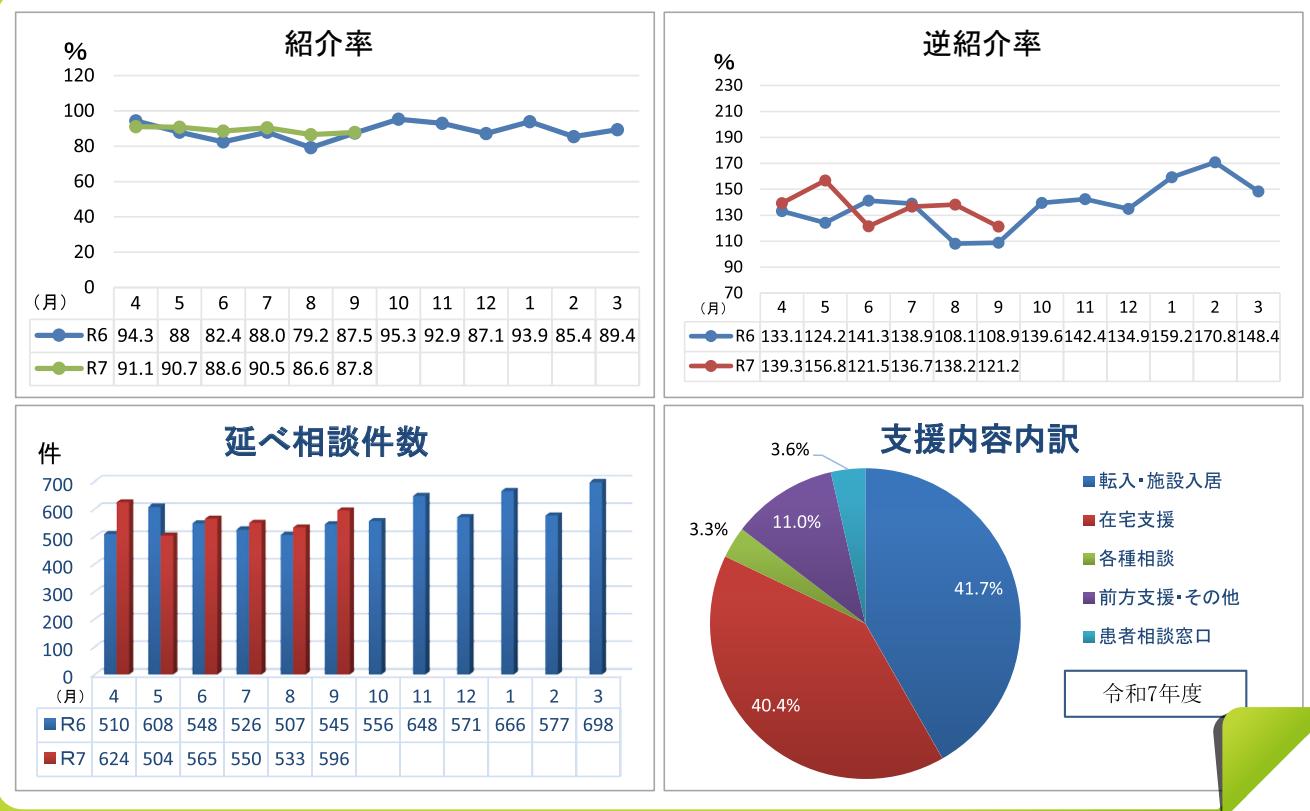
患者様の人生に寄り添い、医療を通じてサポートします。お気軽にご相談ください。



副院長 木村 真大

地域医療連携室実績報告

※令和7年4月分より、過去データも含めて算出方法を変更しております



紹介医療機関実績報告

ご紹介をいただいた医療機関を一部掲載しました。

紙面の都合上すべてを掲載できませんが、ご紹介をいただきありがとうございました。

紹介元医療機関 上位20施設(50音順)	件数 (総数)	件数 (月平均)	紹介先(逆紹介)医療機関 上位20施設(50音順)	件数 (総数)	件数 (月平均)
医療法人社団いちご会 糸谷整形外科医院	569	95	医療法人ハートフル アマノ病院	59	10
独立行政法人 国立病院機構 岩国医療センター	61	10	医療法人社団いちご会 糸谷整形外科医院	516	86
駐留軍要員健康保険組合岩国基地診療所(岩国ベース)	70	12	独立行政法人 国立病院機構 岩国医療センター	172	29
おおえ内科クリニック	158	26	岩国市医療センター医師会病院	55	9
大竹中央クリニック	68	11	岩国市立美和病院	40	7
おだ整形外科クリニック	55	9	おおえ内科クリニック	130	22
医療法人社団明和会 大野浦病院	39	7	大竹中央クリニック	71	12
医療法人 木村医院	41	7	おだ整形外科クリニック	39	7
こうろ皮ふ科	61	10	医療法人社団明和会 大野浦病院	80	13
佐川内科医院	37	6	医療法人 木村医院	40	7
JA広島総合病院	92	15	佐川内科医院	53	9
しまだファミリークリニック	108	18	JA広島総合病院	238	40
坪井クリニック	43	7	しまだファミリークリニック	89	15
ないとうクリニック	49	8	医療法人英眞会 坪井クリニック	39	7
医療法人 中村クリニック	148	25	医療法人 中村クリニック	112	19
広島大学病院	37	6	広島大学病院	119	20
村井内科クリニック	53	9	村井内科クリニック	43	7
医療法人社団知仁会 メープルヒル病院	44	7	医療法人社団知仁会 メープルヒル病院	94	16
山下ケアクリニック	270	45	山下ケアクリニック	190	32
医療法人社団親和会 大和橋医院	40	7	医療法人社団親和会 大和橋医院	49	8

*件数は令和7年4月～令和7年9月実績

● ● ● 外来診療担当医表 ● ● ●

広島西医療センター

※受付時間 午前8時30分から午前11時まで

令和7年10月1日現在

		月	火	水	木	金	備 考
総合診療科	1診(新患)	生田 順也	岸 楓 雄太郎	岸 楓 雄太郎	大 谷 裕一郎	大 谷 裕一郎	下記の専門領域以外の新患
	2 診	大 谷 裕一郎	大 谷 裕一郎	生 田 順也	岸 楓 雄太郎	生 田 順也	
内 科	1診 呼吸器/血液	広 大(呼吸器)	宗 正 昌三(血液)	下 村 壮 司(血液)	広 大(呼吸器)	広 大(血液)	再診外来予約制
	2 診 消 化 器	藤 堂 祐子/山 中 秀 彦(消化管)	清 下 裕 介(胆 脘)	山 中 秀 彦(消化管)	清 下 裕 介(胆 脘)	藤 堂 祐子(消化管)	
	3 診 内 分 泌 代 謾/糖 尿 病	/	太 田 逸 朗	太 田 逸 朗	広 大 医 師	/	
	4 診 血 液	広 大 医 師	角 野 萌	宗 正 昌 三	角 野 萌	宗 正 昌 三	
	5 診 循 環 器	藤 原 仁	栗 栖 智	藤 原 仁	栗 栖 智	藤 原 仁	
	6 診 消 化 器/血 液	下 村 壮 司(血液)	広 大(肝 臓)	/	広 大(肝 臓)	/	
	22 診 腎 臓	/	平 塩 秀 磨	/	谷 浩 樹	平 塩 秀 磨(大 成 小 百 合)	
脳神経内科	1 診	鳥 居 剛	黒 田 龍	原 直 之	牧 野 恭 子	檜 垣 雅 裕	予 約 制
	2 診	牧 野 恭 子 (パーキンソン病)	岸 彩 夏	黒 田 龍	檜 垣 雅 裕 (頭 痛)	黒 田 龍	予 約 制 PM
インスリンポンプ外来		太 田 逸 朗	/	/	/	太 田 逸 朗	予 約 制 PM
禁	煙 外 来	/	担 当 医	/	/	/	14時~16時 予 約 制
小 児 科	一般 外 来		広 大 医 師 AM	/	/	/	
			/	/	/	広 大/(予 防 接 種)	受付13時~16時 予防接種は13時~14時(予約制)
	専 門 外 来	小 腱 ジストロフィー	古 川 年 宏	古 川 年 宏	古 川 年 宏	古 川 年 宏	
補 装 具	重 症 心 身 障 害	金 子 陽 一 郎/藤 井 寛	金 子 陽 一 郎/藤 井 寛	金 子 陽 一 郎/藤 井 寛	金 子 陽 一 郎/藤 井 寛	金 子 陽 一 郎/藤 井 寛	予 約 制
	神 経 外 来	/	小 林(第3)	/	/	/	
		/	/	/	/	/	
外 科	初 診	石 崎 康 代	豊 島 幸 憲	大 石 幸 一	大 石 幸 一/石 崎 康 代	/	金 曜 日 は 適 宜 問い 合 せ
	再 診	山 口 瑞 生/大 石 幸 一	大 石 幸 一/石 崎 康 代	石 崎 康 代	豊 島 幸 憲	/	
整 形 外 科	初 診	高 橋 大 地	田 中 碩	永 田 義 彦	/	根 木 宏	木 曜 日 手 術 日 月 曜 日()手 術
	再 診	根 木 宏	永 田 義 彦	根 木 宏	/	永 田 義 彦	
	再 診	(永 田 義 彦/田 中 碩)	広 大 医 師	高 橋 大 地/田 中 碩	/	田 中 碩/高 橋 大 地	
形 成 外 科		/	藤 高 淳 平	/	藤 高 淳 平	藤 高 淳 平	
泌 尿 器 科	1 診	安 本 博 晃	/	安 本 博 晃	広 大 医 師	安 本 博 晃	火 曜 日 手 術 日 木 曜 日 手 術 日
	2 診	浅 野 耕 助	浅 野 耕 助	広 大 医 師	/	浅 野 耕 助	
産 婦 人 科		古 宇 家 正	/	/	古 宇 家 正	/	予 約 制
皮 膚 科		末 岡 愛 実	/	/	末 岡 愛 実	末 岡 愛 実	水 曜 日 手 術 日
眼 科		広 大 医 師 AM	/	/	/	/	

●予約窓口●

- ・患者さんからの直接予約・予約変更は、平日13時~16時までに予約センターへご連絡下さい。
- ・医療機関からの予約(CT・MRI含む)は、地域医療連携室へご連絡下さい。
- ・予約窓口がわからない場合も、地域医療連携室にご連絡下さい。

■病院代表電話番号 TEL (0827) 57-7151 ■予約センター(直通) TEL (0827) 59-0251

■地域医療連携室 ダイヤルイン (0827) 57-7183(内線2140) FAX (0827) 57-7701

広島西医療センターホームページでも紹介しています。ご利用ください。
<https://hiroshimanishi.hosp.go.jp/>